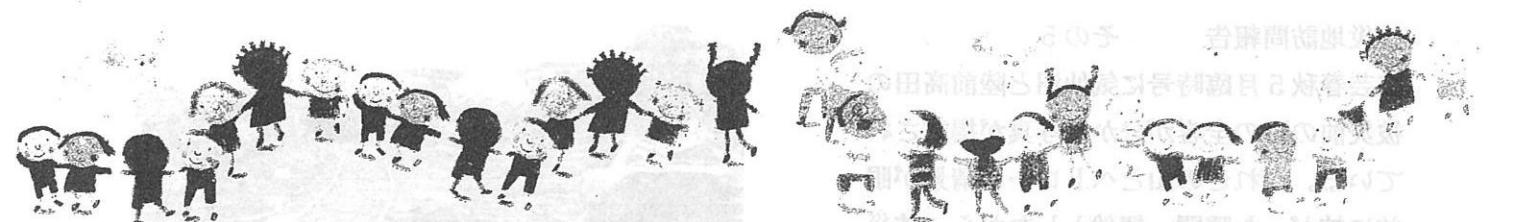


被災地からの避難家族のみなさんへ

実行委員会は京都（向島・山科西野山市営住宅）へ、避難されている方に、4月30日の被災地応援イベントへ招待することを考えました。そして下記のようなお便りを作りました。これを被災者のお世話をされている方を通じて渡していただけたようになりました。避難されてきている方が当日来ていただけても、一時の安らぎになるような時間になるようにと当日の準備を頑張って進めています。

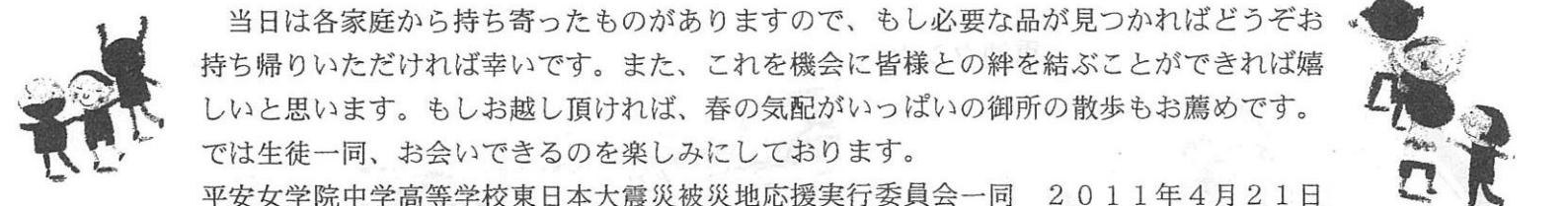


初めまして。私たちは京都の中心、御所の隣にある平安女学院中学校高等学校の生徒です。3月11日の東日本大震災の被害状況を知り、胸が押しつぶされそうな痛みを感じています。震災直後は、「私たちに何ができるか」を考えようとしていました。しかし、考えているだけではいけないと思い、新学期に入って、東日本被災地応援実行委員会を立ち上げ、今日まで毎日活動を続けています。先ず4月30日（土）午前10時～12時半に、被災地応援イベントを計画しました。イベントの内容は、心を癒してくれる音楽の数々を聞いていただく内容と、支援物資の買い取りによる募金活動などです。内容のすべては、直接被災された方々に、お元気になっていただきたいとの強い思いを込め、私たちが零から考えたものばかりです。

被災されてから、まだ40日しかたっていない中、明るく前を向き、希望を持って進んで行くことなどはとても出来ないと思います。ましてや慣れない土地で、何かと大変なことが多いことでしょう。そして、大変お疲れだろうと思います。そんな時にお説明するところが良いのかどうかについても考えました。その上で、もし、気分転換にでもと思っていただけたら是非お越し頂きたいと思いお便りしました。

当日は各家庭から持ち寄ったものがありますので、もし必要な品が見つかればどうぞお持ち帰りいただければ幸いです。また、これを機会に皆様との絆を結ぶことができれば嬉しいと思います。もしお越し頂ければ、春の気配がいっぱいの御所の散歩もお薦めです。では生徒一同、お会いできるのを楽しみにしております。

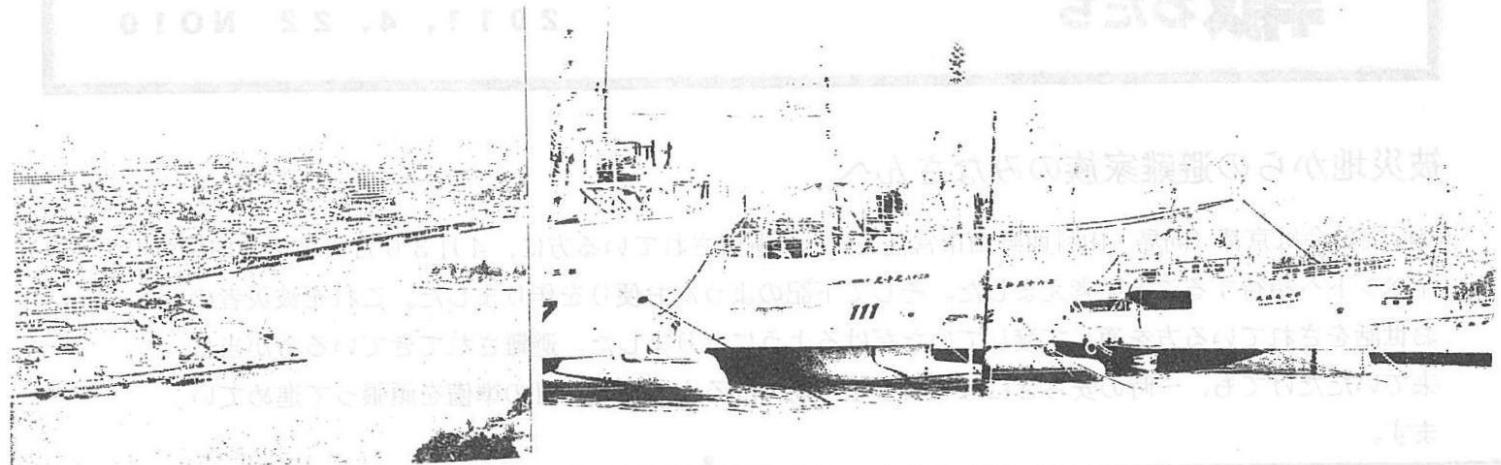
平安女学院中学高等学校東日本大震災被災地応援実行委員会一同 2011年4月21日



全員合唱曲の変更

「明日があるさ」と決めていましたが、よく歌詞をよむと、被災者にとっては、悲しさがますだらうとおもうところがあるので止めました。その代わりに「ふるさと」にしました。昼休みに流すように放送部にお願いし、今日から流れました。みなさん覚えて下さい。

震災前の気仙沼港周辺の町並みと整然と停泊する漁船



被災地訪問報告　その5

文芸春秋5月臨時号に気仙沼と陸前高田の被災前の町の全容が分かる写真が掲載されている。がれきの山とヘドロ…の情景が眼前に拡がった瞬間、愕然しながら、被災前の町を知っている人の、喪失感はいくばくかと思い、残っていた観光ガイドの小さな写真を頂き見つめていた。

漁業が中心産業の町、海に漁船の姿が消えていた。陸に、川に破壊された船底をさらしていた。船舶用の重油タンクが押しつぶされている。流れ出た重油が津浪に乗って町へ、それが町を火の海へ。こわれた車、建物が焦げていた。港町には潮のにおいが全くない。重油やゴムを燃やした臭いなどが、人影もない町に、冷たい風とともに漂っていた。

気仙沼港一帯



重油タンク

